

# TS油圧パッケージ取扱説明書

機種：TS-04P3C-10V

機種：TS-04P3C-12V

機種：TS-04P3I-7V

機種：TS-04P3I-9V

### 1. 概要

このTS油圧パッケージは、圧入やカシメ作業の小型プレス等各種油圧装置に開発されたものでシリンダ等のアクチュエータを除くすべての油圧要素がひとつのユニットにまとめられています。

ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使い下さい。

### 2. 仕様

(1MPa≒10kgf/cm<sup>2</sup>)

(50/60Hz)

形式	TS-04P3C-10V	TS-04P3C-12V	TS-04P3I- 7V	TS-04P3I- 9V
定格圧力	7.0MPa {70kgf/cm <sup>2</sup> }	6.0MPa {60kgf/cm <sup>2</sup> }	4.5MPa {45kgf/cm <sup>2</sup> }	3.0MPa {30kgf/cm <sup>2</sup> }
リーフ弁調整範囲	3.0~9.0MPa {30~90kgf/cm <sup>2</sup> }		1.5~5.0MPa {15~50kgf/cm <sup>2</sup> }	
無負荷時吐出量	1.6/1.9 L/min	1.9/2.3 L/min	3.6/4.4 L/min	4.7/5.7 L/min
タンク容量	4 L (上下限差1.4 L)			
電源	三相 , AC 200V, 50/60Hz (AC 220, 60Hz)			
モーター出力	0.4 kW			
定格電流	2.2/2.0A (2.0A)			
モーター形式	全閉外扇形			
大きさ	幅243×奥行268×高476 mm			
質量	23.7 kg			
回転方向	(ファンカバー側より見て) 右回転			
取付け方向	タンクを下側にして垂直取付け			

※調整範囲内での、リーフ圧力調整は可能ですが、定格圧力以下で設定して下さい。

### 3. 油圧回路図

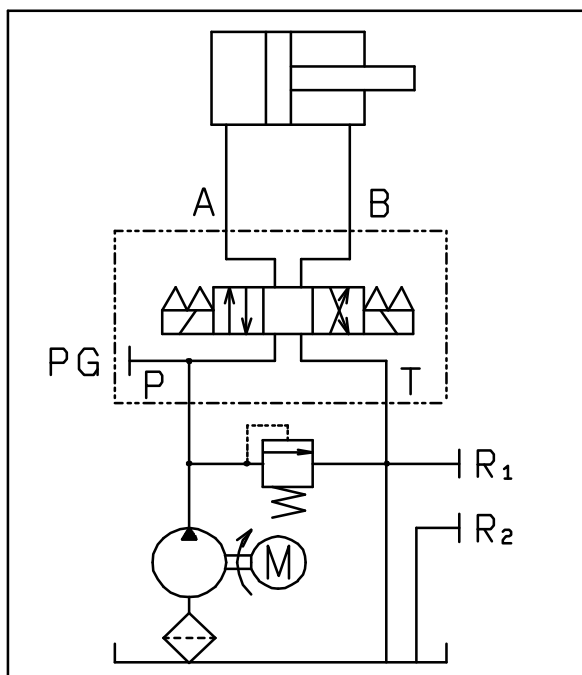


図1に示すように定容量ポンプとリーフ弁が内蔵されています。

オプションで電磁切換弁、積層弁の取付けが出来ます。

☆ポートサイズ

P, T, R<sub>1</sub>, R<sub>2</sub>ポート……R c 3/8  
(オプション)

A, Bポート………R c 3/8

圧力計取り付け口………R c 1/8

(PGポート)

図1 油圧回路図

4. 各部名称及び外観寸法

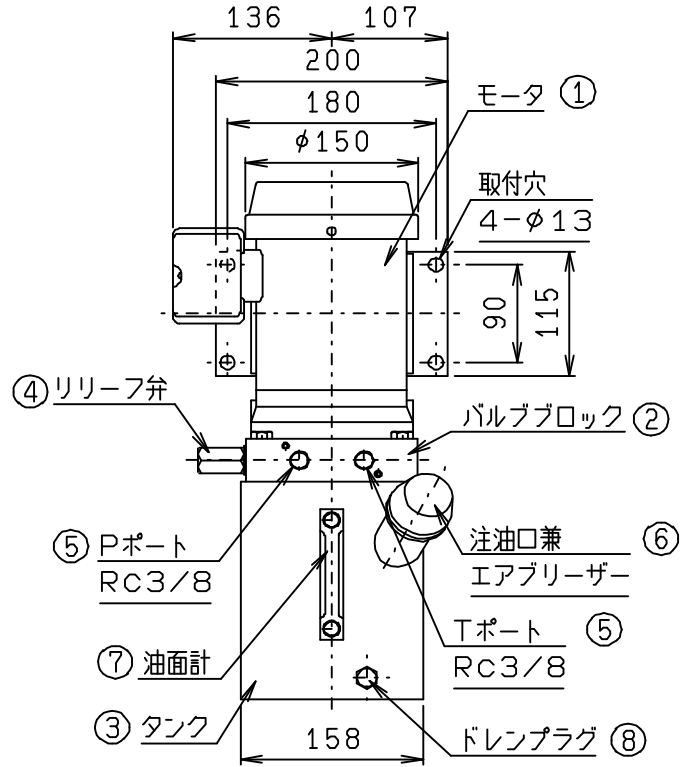


図2 正面図

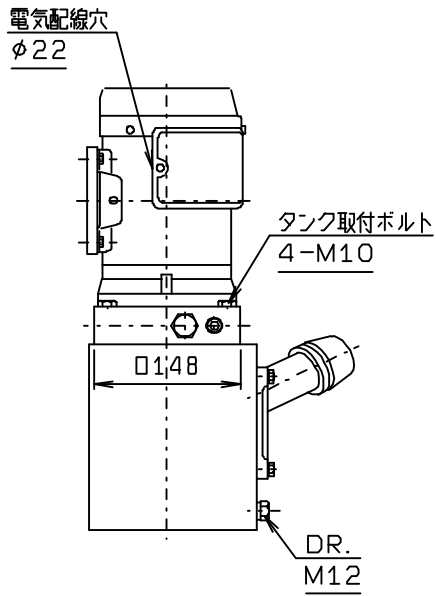


図3 左側面図

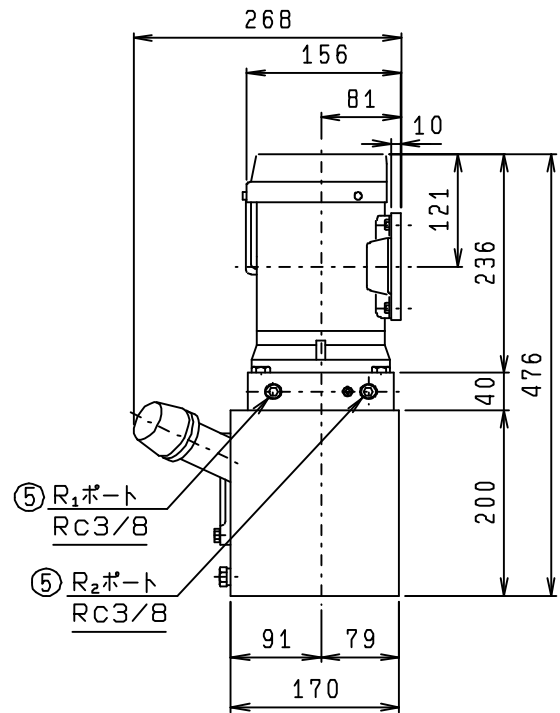


図4 右側面図

4-2 オプション品（電磁弁、積層弁付き）

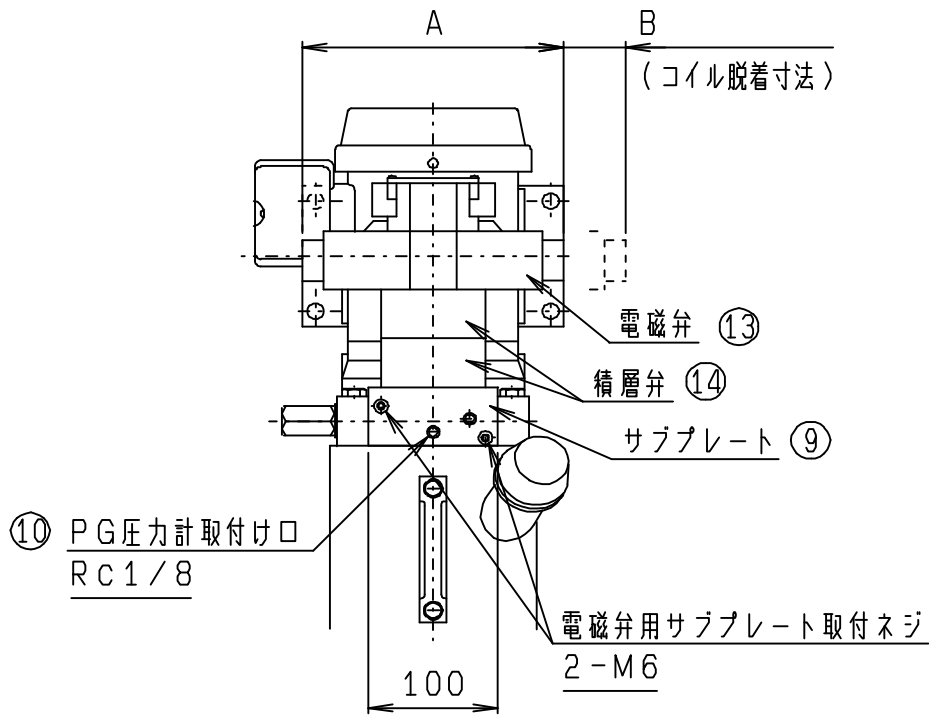


図5 正面図

参考) カヤバ工業製

電磁弁寸法 (mm)

ソレノイド電圧	A	B
AC 100,200 V	201	47
DC 12,24 V	228	60

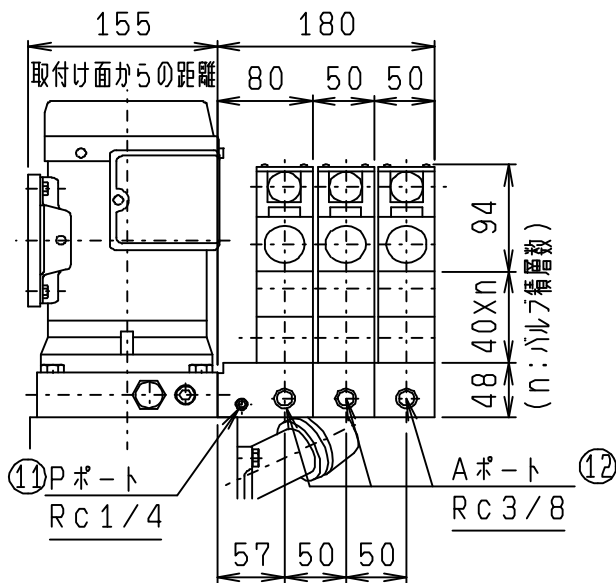


図6 左側面図

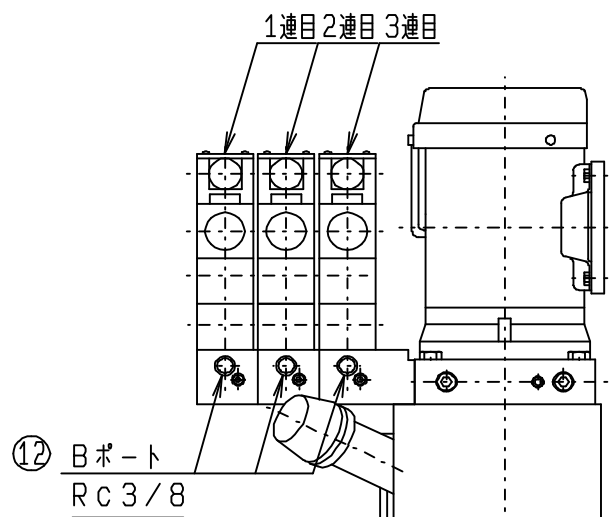


図7 右側面図

## 5. 各部の機能

### 5-1 標準品 (図2, 3, 4参照)

- ①モーター・・・・・・・・全閉外扇形連続定格の三相誘導モーターです。結線は、端子箱内端子台に確実にビス止めして下さい。  
回転方向は、ファンカバー側より見て右回転が正常です。
- ②バルブブロック・・・・本機の中心的役割をはたすもので、リリーフ弁が内蔵されています。  
R<sub>1</sub>, R<sub>2</sub>ポート以外の六角穴付プラグは、外さないで下さい。
- ③タンク・・・・・・・・バルブブロックに4本のボルトで取り付けられています。  
最高4Lの油圧油が入ります。
- ④リリーフ弁・・・・・・・・油圧回路内の最高圧力を規制するための弁です。出荷時、定格圧力に設定してありますが、定められた範囲で調整が可能です。
- ⑤ポート・・・・・・・・P：油の吐出口です。 サイズR c 3 / 8  
T：油の戻り口です。 サイズR c 3 / 8  
電磁弁付きは、P、Tポートがサブプレートに隠れます。  
R<sub>1</sub>, R<sub>2</sub>：油の戻り口です。 サイズR c 3 / 8  
通常、六角穴付きプラグでシールしてあります。
- ⑥注油口兼・・・・・・・・注油の際、フタを90°回転させるだけで簡単に取り外しができます。  
エアブリーザー 使用中は必ずフタをし異物の侵入を防止して下さい。エアブリーザーを兼用します。
- ⑦油面計・・・・・・・・タンク内の油面高さを確認すると同時に油の汚れを見るのにお役立て下さい。H、Lレベルの油量差は1.4Lです。
- ⑧ドレンプラグ・・・・・・・・M12の六角ボルトでシールワッシャーによりシールされています。  
油圧油を抜き取る時に使用します。

## 5-2 オプション品 (図5、6、7参照)

これからの機能説明は、オプション品（電磁弁、積層弁付き）のみの機能です。

- ⑨電磁弁用サブプレート  
電磁弁、積層弁を取り付けるプレートです。電磁弁連数に合わせてサブプレート取付ネジ（2-M6六角穴付きボルト）でバルブブロックに取付きます。  
また、正面に圧力計取付口、左側面にAポート、右側面にBポートがあります。
- ⑩圧力計取付口  
Pポートの圧力検出のためのR c 1/8のネジ穴です。  
通常は、六角穴付きプラグでシールしてあります。
- ⑪Pポート  
油の吐出口です。サイズR c 1/4で通常は六角穴付きプラグでシールしてあります。
- ⑫Aポート・Bポート  
電磁弁用サブプレートにある、アクチュエータに接続されるサイズR c 3/8のネジ穴です。
- ⑬電磁弁  
アクチュエータ動作方向を切り換えるためのバルブです。  
別紙、『電磁切換弁形式表示説明』の電磁弁がオプションで取付きます。
- ⑭積層弁  
電磁弁と電磁弁用サブプレートの上に積層できる制御弁です。  
別紙、『積層弁形式説明』にある積層弁が、オプションで取付きます。

### ☆オプション品に関する注意事項

- (1) パッケージに直接取付けられる電磁弁の連数は、最高3連までです。  
4連以上必要とする場合は、市販のサブプレートを使用し電磁弁部分を別置きとして使用して下さい。
- (2) 電磁弁連数、使用する積層弁数が多い場合、それらを通過する際に生じる圧力損失により、Aポート、Bポートでの吐出量及びリリーフ圧力が低下します。
- (3) 電磁弁連数の変更、電磁弁、積層弁の変更等で、取付けボルトを締め付ける場合、その締め付けトルクは、下記範囲にして下さい。  
○サブプレート取付けネジ・・・・・・・・10~12 N・m {100~120 kg・cm}  
○電磁弁取付けネジ・・・・・・・・6~8 N・m {60~80 kg・cm}
- (4) 電磁弁及び電磁弁取付け部に、無理な力が加わらないようにして下さい。

## 6. 使用方法

### 6-1 取付け・配管方法

- (1) 本機はタンクを下側にして垂直に取付けて下さい。
- (2) モーターは全閉外扇形になっていますが、完全に密閉されていませんので屋外に取付けるときは、本機全体をカバーで覆って下さい。
- (3) 設置場所の環境は、通気性が良く、周囲温度10～40℃が理想的です。
- (4) 電源の配線は、電源側の端子を確実にビス止めし、端子箱のフタをして下さい。  
結線方法は、R-U、S-V、T-Wです。
- (5) 本機にはRc3/8のP、T、R<sub>1</sub>、R<sub>2</sub>ポート（図2、4参照）、オプション品（電磁弁付き）の場合、A、B、R<sub>1</sub>、R<sub>2</sub>ポート（図4、6、7参照）があります。ここへ接続する配管材はRc3/8を使用して下さい。他の部品の配管材もRc3/8、又は、それ以上のものを使用して下さい。
- (6) 使用する配管材は、十分にフラッシングしたものを使用して下さい。
- (7) 配管材を接続する時は、漏れ防止のためシールテープ等を使用し、ネジ込みトルクは  
30N・m {300kg・cm} 程度にして下さい。

### 6-2 作動油

- (1) タンク内に作動油は入っていません。使用の前に注油口兼エアブリーザー（図2参照）のキャップを外して注油して下さい。
- (2) 作動油は清浄な石油系作動油で粘度グレードが ISO VG#32～#68のものを  
使用して下さい。  
使用頻度が激しく、油温が60℃以上になる時は、ISO VG#68を使用して下さい。
- (3) タンク内の油量はHレベルで4.0L、Lレベルで2.6Lです。
- (4) 実使用时间 約1000hr 毎に全油を新油と交換して下さい。

### 6-3 初めて始動する時の注意事項

- (1) シリンダや他の油圧機器が油圧回路図通り配管されているか、また電気配線に問題はないか確認して下さい。
- (2) モータの回転方向が正常な事を確認して下さい。
- (3) 作動油が油面計のHレベルとLレベルの間にあることを確認して下さい。
- (4) ポンプが油を吸入しにくい場合がありますので、ポンプに負荷のかからない状態にして始動して下さい。
- (5) 作動油が配管やシリンダの中へ行き渡るまで、タンク内の油は減少しますので、タンク内の最大油量が油面計のHレベルに来るまで追加補給して下さい。又、シリンダの押し端、引き端で油面の高さは変わりますが、常に油面はHレベルとLレベルの容量差（有効油量）は1.4Lです。
- (6) 回路内のエアはシリンダまたは配管の上部から抜いて下さい。この部分からのエア抜きが困難な場合は、シリンダ両端で4～5秒のリリーフ弁動作を数回繰り返すことにより、ほぼエアが抜けます。

### 6-4 圧力計の取付方法

- (1) 回路内の圧力確認のために、圧力計を取り付けることをお奨めします。
- (2) 本機オプション品（電磁弁付）にはPポートの圧力を確認するためのR c 1 / 8の圧力計取付けポートがあります。（図5参照）
- (3) 圧力計取付けポートにチェック弁付きカップラーを取付け、必要時のみ圧力測定を行うようにすれば、圧力計の数量も少数で、しかも圧力計の耐用年数も延ばすことができます。



## 6-5 リリーフ弁設定圧力の調整

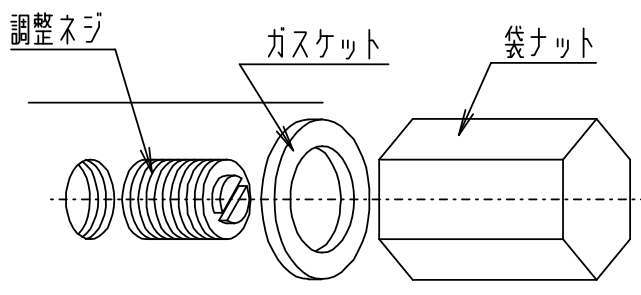


図 8

本機にはリリーフ弁が内蔵されています。

(図 2 参照)

出荷時には定格圧力に設定してありますが、必要に応じて定められた範囲で調整することができます。

- (1) 必ず圧力計で確認しながら調整を行って下さい。
- (2) 調整は図 8 の調整ネジで行ないます。右に回せば増圧、左に回せば減圧します。
- (3) 調整終了後は、ガスケットを入れて袋ナットを  $30 \text{ N} \cdot \text{m}$  {  $300 \text{ kg} \cdot \text{cm}$  } 程度の締め付けトルクで確実に締め付け、油漏れのないことを確認して下さい。

## 6-6 運転上の注意事項

- (1) モータ及びポンプ寿命、油温上昇の上から、定格圧力以下で使用して下さい。
- (2) 電源には必ずブレーカーを組み込んで下さい。モータの焼損の恐れがあります。
- (3) 電源コードの上に重い物を絶対に乗せないで下さい。  
火災や感電の原因になります。
- (4) 静電防止及び感電防止のために、端子箱または、モータベースにあるアース端子にアース線を接続して下さい。
- (5) バルブブロック (図 2) 及び電磁弁用サブプレート (図 5) には数ヶ所、六角穴付きプラグ (詰栓) がありますが、 $R_1$ 、 $R_2$  ポート、圧力計取付けポート以外は、運転中又は、停止時においても絶対にゆるめないで下さい。本機の機能を損なうことがあります。
- (6) 使用条件により、かなり油温が上昇することがあります。特にリリーフ弁の長時間作動や流量制御は発熱の原因となります。できるだけ  $60^\circ\text{C}$  以下の油温でご使用下さい。この油温を越える時は、運転条件を楽にするか補助タンクやクーラーを別に取り付けるようにして下さい。このパッケージはオプションで空冷オイルクーラーを取り付けることができます。  
(別紙 『空冷オイルクーラー付資料』 参照)

## 7. 保守・点検

### 7-1 作動油の補給・交換

- (1) 長時間使用により油漏れなどのため、作動油の最低油面のLレベル以下になった時は、作動不良の原因となりますので新油を補給して下さい。
- (2) 実使用时间約1000 hr 毎に、油の劣化による特性や寿命の低下防止のために全部の油を新油と交換して下さい。油を抜く時はドレンプラグ（図2参照）をスパナで取り外して行なって下さい。

### 7-2 吸入フィルターの洗浄

- (1) 吸入フィルターが目詰まりすると騒音や流量不足の原因となります。定期的に洗浄して下さい。1日、8時間程度の使用で、1年に1～2回行なって下さい。
- (2) タンク内に吸入フィルターが組み込まれています。図9に示す4本のタンク取付けボルトをゆるめてタンクを取り外して行なって下さい。この際、吸入フィルターをタンクに引っ掛けないようご注意ください。

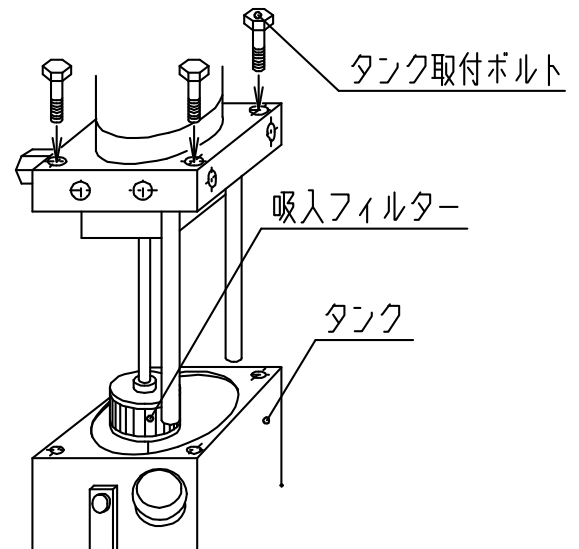


図9

### 7-3 作動圧力の確認

- (1) 作動圧力に異常がないか定期的に確認して下さい。（1～2ヶ月に1回）
- (2) リリーフ弁設定圧力が変化している時は、安易に設定圧力を調整しないで原因を調査して下さい。
- (3) リリーフ弁設定圧力は油温によって若干変化します。  
例えば、油温30℃で7MP a {70 kg f / c m<sup>2</sup>} だったものが60℃に油温上昇すると6.7MP a {67 kg f / c m<sup>2</sup>} 位に圧力降下することがあります。

### 7-4 油温の確認

- (1) 6-6-(6) 項に記したように、油温は60℃が限界となりますので定期的に確認して下さい。油温上昇は次項の計算式を参考にして下さい。
- (2) 簡易的にタンクに手を触れて油温を推定できます。
  - 油温60℃ 手で10秒程度しか触れていられない。
  - 油温80℃ 指1本で2～3秒程度しか触れていられない。

### 7-5 油漏れ・エア吸い

油漏れ、エア吸いは性能低下の原因となります。発見した時は、配管接合部を再配管するか増し締めして下さい。

7-6 油温上昇計算式

下記、油温計算式を利用して、油温の概略値を求めることができます。

$$\text{油温 (}^\circ\text{C)} = \text{室温 (}^\circ\text{C)} + \Delta t \quad \Delta t : \text{油温上昇値 (K)}$$

(a) プレス作業のように、一定のサイクルで運転される使用

機 種	$\Delta t$
TS-04P3C-10V	$\Delta t = 6X + 15$
TS-04P3C-12V	$\Delta t = 7X + 15$
TS-04P3I-7V	$\Delta t = 10X + 15$
TS-04P3I-9V	$\Delta t = 15X + 15$

ここで、

$$X = \frac{\sum P_n \cdot T_n}{T_c}$$

$P_n$  : ポンプ吐出圧力 (MPa)  
 $T_n$  : 圧力  $P_n$  で運転される時間 (sec.)  
 $T_c$  : 1サイクルの時間 (sec.)

(b) クランプ作業のように、リリーフ状態で長時間運転される使用

機 種	$\Delta t$
TS-04P3C-10V	$\Delta t = 9P_r + 15$
TS-04P3C-12V	$\Delta t = 11P_r + 15$
TS-04P3I-7V	$\Delta t = 12P_r + 20$
TS-04P3I-9V	$\Delta t = 18P_r + 20$

※1MPa $\approx$ 10kgf/cm<sup>2</sup>       $P_r$  : リリーフ弁設定圧力 (MPa)

計算上の注意

※1 簡略式ですので、実測値と比べ誤差が生じます。

タンク容量を大きくした場合、下記の数値を計算値よりマイナスして下さい。

$$4L \rightarrow 8L : 5 (K)$$

$$4L \rightarrow 14L : 7 (K)$$

リリーフ動作時間

※2 リリーフ動作割合  $\left[ \frac{\text{リリーフ動作時間}}{\text{1サイクル時間}} \times 100 \right]$  が80%を超える場合。

(b) の式にて計算して下さい。

## 8. 異常と処置

異常内容	原因	処置
モーターが回転しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 配線不良</li> <li>● モーター焼損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 配線し直し</li> <li>● モーター交換</li> </ul>
モーターの回転が遅い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 配線不良（二相運転）</li> <li>● リレー接点溶着（二相運転）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 配線し直し</li> <li>● 接点交換</li> </ul>
モーターは回転しているが油が吐出しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タンク内の油量不足</li> <li>● 配管部よりエア吸入</li> <li>● フィルター目詰まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作動油補給</li> <li>● 再配管</li> <li>● 吸入フィルター洗浄</li> </ul>
規定油量が吐出しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 油温が高過ぎる</li> <li>● 圧力がリリーフ弁設定圧力に近い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 使用頻度を緩和する補助タンクを使用する</li> <li>● 使用圧力を下げる</li> </ul>
規定圧力が発生しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 油温が高過ぎる</li> <li>● リリーフ弁調整不良</li> <li>● 配管部より油漏れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 使用頻度を緩和する補助タンクを使用するクーラーを取付ける。</li> <li>● リリーフ弁再調整</li> <li>● 再配管</li> </ul>
異常発熱	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 使用圧力が高過ぎる</li> <li>● 使用頻度が激しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定格圧力内で使用</li> <li>● 使用頻度を緩和する</li> </ul>
異常騒音	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作動油の粘度が高い</li> <li>● 吸入フィルター目詰まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 規定粘度油に交換</li> <li>● 吸入フィルター洗浄</li> </ul>

※内部機構に起因すると思われる異常については、なるべく現状保持の状態で弊社宛修理を要請して下さい。

※外部からの異物侵入により異常となる場合がありますので、配管の際、配管材その他から異物侵入することのないようご注意下さい。